

小中学年の保護者の方より

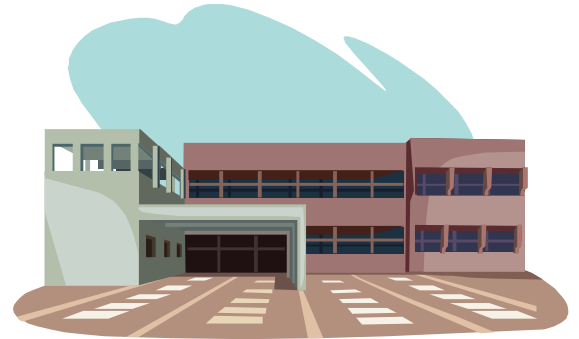
「日本語学校のありがたさ」

長女が日本語学校に通い始めて6年目、次女は4年目で、「土曜日は日本語学校」というのが毎週の習慣になっています。

メドフォード高校まで、家から車で約50分かかりますが、ボストン日本語学校が通える距離にあるということ、とても幸運に思います。片親しか日本語を話さない環境で、子供に日本語を教えるのは、とても私一人では出来ることではありません。毎週3時間の日本語で勉強して、期限のある宿題をもらえる。そして、困ったときは、学校で知り合った保護者のサポートもある。去年まで共働きだったので、日本に行く機会も少なく、日本語学校に行っていなければ、子供達が日本語に触れることが、かなり限られてしまっていたと思います。

確かに、日本語学校に行っていると、大変なことも多いです。スポーツや趣味系の習い事だけをしている現地校の友達と比べて、追加で日本語の勉強をすることに抵抗することも少なくありません。そのなかで、親子関係をくずさないように、日本語学校がひどい負担にならないように、他にも子供達が楽しめることも十分させてあげるようにと、完璧ではないけれど、色々とバランスを考えてやっています。

苦労も多いのですが、初めて夏休みに日本に帰った時、子供達が体験入学を無理なく経験でき、家族や友達と日本語で会話をしているのを見て、やっぱり日本語学校に通っていたおかげだなと、改めて感じました。娘達も、日本語学校に行っていてよかったと思えるようになってくれると嬉しいです。



「漢字検定を終えて」

今年も恒例の漢字能力検定試験が去る11月9日に日本語学校にて行われました。我が家の長男にとっては三回目、次男にとっては初めての挑戦となりました。

受検の申し込みをしてからは、疾風怒濤の日々の始まりです。まず初めに過去問題集の1に果敢に挑むのですが、全く歯が立たずに、敢えなく撃沈。打ちのめされ落ち込むところから、始まる事となりました。受検内容は、日本の文化、習慣を知らなければ難しいところもあり、アメリカ生まれの我が家の子達にとっては相当ハードルが高い内容です。分からない所は一つ一つ親が説明しなくてはならず、厚い問題集を見ていると気が遠く成ります。

漢字検定を通して、改めて海外在住子弟の日本語習得の難しさを実感すると同時に、その必要性にも気付かされます。毎年、漢検を企画・運営して下さっているご担当者の皆様に、この紙面を借りてお礼申し上げます。

